令和4年度　　自己評価表　　葛飾区立　桜道中学校

学校教育目標	○《自主》　自分の考えをもち、正しく行動し、責任をもつ　○《敬愛》　自分を大切にするとともに、他人を敬う　○《根気》　物事を最後までやり抜く、粘り強さをもつ
めざす学校像	①生徒が安心して登校し、満足して下校できる学校　②当たり前のことが当たり前にできる学校　③生徒たちが学び育ち合い、教師も教育の専門家として学び育ち合う学校 ④保護者や地域と連携し、地域社会に信頼される学校　⑤コロナ禍での新生活様式を徹底した上で学校行事、生徒会活動や部活動の充実した学校
めざす子供像	①「何かで人より」何かで人より秀でるものを見つける努力する生徒　②「何かで人に」何かで人の役に立つことをしようとする生徒
めざす教師像	①授業を大切にする教師（プロとしての授業力向上）②気付く教師かつ築く教師　③人間味あふれる教師（公平な態度、愛情のある指導）④公務員としての自覚をもった教師　⑤危機意識をもった教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準 取組(努力) 指標				成果指標				分析コメント	改善策
				取組(努力) 指標		成果指標		中間	年間	中間	年間		
確かな学力の向上	○わかる授業を推進し、少人数授業・個別指導を積極的に展開し、確かな学力を身につけさせる。 ○授業の規律を確立し、学力の定着を図る。 ○個性を生かす授業を進めるとともに言語活動を充実させ生きる力をはぐくむ。	チャイムとともに授業を始め、授業規律を確立させる。	授業担当教員がチャイムとともに授業を始める。 一生徒はチャイム着席ができる。	4 全教諭が取り組んだ	4 生徒はどの教科でもできた	3.8	3.9	3.8	3.8	すべての教員がチャイムとともに授業を始められるように準備を行なっており、教員も生徒も共にチャイム意識は定着してきている。結果、落ち着いて授業が始められ、授業全体の成果を上げる要因となっている。	チャイム着席は、すべての教科で定着し授業はチャイムとともに始めることができている。落ち着いて授業が始められ、授業全体の成果を上げる要因になるとともに、生活態度の安定にも繋がっている。今後も継続できるよう施策を引き続き継続を行っていく。
				3 大半の教諭が取り組んだ	3 大半の教科でできた								
				2 あまり取り組めなかった	2 もうひと|だった								
				1 ほとんど取り組めなかった	1 できていなかった								
		授業を集中して受けさせる。	落ち着いた雰囲気で授業を進める。 一生徒は集中して授業を受けている。	4 全教諭が達成できた	4 生徒はどの教科でも集中できた	3.7	3.7	3.7	3.6	取組と成果指標ともに昨年度と同様、落ち着いて授業に取り組めている。生徒と教員の信頼関係をさらに深め、より授業への集中力や理解力を高めるようにする。	休憩時間と授業とのけじめをつけさせ、今後も生徒と教員が共に授業を作り上げていく意思を持つ。また、生徒同士のより深い学びになるように授業を構成して、授業への集中力や理解力を高めるようにする。
				3 大半の教諭が達成できた	3 大半の教科で集中できた								
				2 あまり達成できなかった	2. あまり集中できていない教科が多い								
				1 ほとんど達成できなかった	1 ほとんど集中できていない。								
		確かな学力を身に付けさせるため、「葛飾スタンダード」を実践し、わかる・楽しい授業を実施する。	「葛飾スタンダード」に示されている「ねらい」の提示などにより、1時間の授業の内容定着を図る。 一生徒は、授業の「ねらい」がわかり見通しがもて、内容の理解ができている。	4 全教諭がしっかりと実践している	4 どの生徒も「ねらい」がわかり、内容が理解できた	3.5	3.6	3.7	3.6	年々改善し、生徒の授業への取り組みも安定している。生徒は教員の取り組みを十分評価し、学習内容も理解していることがわる。	一人一人の授業の様子や、課題への取り組み状況をよく観察し、必要な生徒に対する適切な支援を行いながら、生徒同士の相互の学び合いによる授業展開を行う。
				3 おおかた実践している	3 大半の生徒が理解できた								
				2 あまり実践できていない	2. あまり理解できなかった生徒が多い								
				1 ほとんど実践できていない	1 ほとんどの生徒が理解できていない								
			教師の発問をもとに、生徒がじっくり考える時間を確保して、主体的な活動をする場（スタンダード～の活動）を効果的に取り入れる。 一生徒は、そう思っている。	4 全教諭がしっかりと実践している	4 生徒はどの教科でもそう思っている。	3.4	3.4	3.7	3.6	授業中に課題や学習内容をじっくり考える時間は、授業中確保されていると生徒は感じている。現状の教員の授業展開も考える時間を確保しているとの評価しているので今後も維持してできるようしていく。	効果的な授業展開を考えた準備と、授業のねらいを構成するための「生徒がじっくり考える」時間を教室にあるタイマーを活用するなどして確実に確保するように、している。生徒は考える時間が確保されていると評価しているので、今後も維持できるようにしていく。
				3 おおかた実践している	3 生徒は多くの教科でそう思っている。								
				2 あまり実践できていない	2. 生徒はあまりそう思っていない。								
				1 ほとんど実践できていない	1. 生徒はほとんどそう思っていない。								
		客観的で信頼できる評価方法を工夫し、学習改善・指導改善に取り組む。	評価・改善により、生徒の実態に応じた教材・教具・板書の工夫をして、授業を行う。 一生徒は、教員の授業準備に満足している。	4 全教諭が取り組んだ	4. 生徒はどの教科でも満足感を得た。	3.3	3.6	3.8	3.6	今年度も教員は様々な授業準備を行い、区の意識調査や都・全国の学力調査結果を受けて、生徒の実態に応じた指導方法を工夫し、学力向上に向けた授業を展開している。	生徒の授業アンケートについては、5科と4科とに分けて教科担任が必ず確認し、これまでの授業の反省と今後の授業改善に向けた取り組みを考える機会とする。 今後も教科主任を中心に改善点をまとめることとする。
				3 大半の教諭が取り組んだ	3. 生徒は大半の教科で満足感を得た。.								
				2 あまり取り組めていない	2. 生徒はあまり満足感を得られていない。								
				1 ほとんど取り組めていない	1. 生徒はほとんど満足感を得られていない								
		個人差に応じた授業や体験的な学習、問題解決的な学習を重視する。	生徒一人一人の習熟度や学習到達度の個人差に応じた授業の展開を行い、自主的・自発的な学習を促す。 一生徒は進んで学習している。	4 どの教諭も実践した	4 どの生徒も進んで学習している。	3.1	3.3	3.4	3.3	英語では少人数によるきめ細かな指導、数学では生徒の習熟度に応じた教材を工夫して授業を行っている。また、5教科担任は専金前などに放課後補充教室等を計画して学力向上を図っている。	今年度も基礎的な内容で教科ごとの補充教室を開設している。 塾や習い事など、学校外の取り組みのため放課後に集うことができる生徒も多いなが、今後も状況を見ながら継続していく。
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒が進んで学習している。								
				2 あまり実践できていない	2. 進んで学習していない生徒が多い								
				1 ほとんど実践できていない	1 生徒はほとんどしていない								
		学習センター(学校図書館)を有効活用する。	学習センター(学校図書館)を有効に活用して、読書活動の充実を図る。 一生徒は、それらをしっかり取り組んでいる。	4 どの教諭も実践した	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	2.5	2.4	2.2	2.3	コロナ禍のためもあり図書室利用に制限があり利用が進んでいない部分もあるが、休み時間に読書をしている生徒もいて、図書室の本を借りて読書を楽好する生徒は一定数いる。今後は図書委員会の活動も含め図書室利用を進めていく。	朝学習の後や昼休みなど、読書している生徒は多い。図書室の本を借りて読もうとする生徒も多く、昼休み前には数人の本が借りられている。 図書委員会の新刊紹介などの取り組みやブックトークなど学校司書が企画し進めており、今後も昼休みや放課後だけでなく、教科授業での利用も進める。
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり実践できていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど実践できていない	1 生徒はほとんど取り組めていない								
		SDGsを通して持続可能な社会づくりと自ら考え行動する力を身に付ける。	SDGsについて意識しながら行動する重要性を学び、持続可能な社会の創り手を育む。 一生徒は、それらをしっかり取り組んでいる。	4 全教諭が取り組んだ	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	3.1	3.2	2.8	3.0	各学年、テーマを決め取り組んできた。企業とのタイアップや社外学習などの活動を通して、一人一人が考え体験し、まとめ学習を行えた。	今年度からの取り組みで手探りのところもあった。各学年の担当を中心に情報共有をし、今後の活動を広げていく。
				3 大半の教諭が取り組んだ	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり取り組めていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど取り組めていない	1 生徒はほとんど取り組めていない								
		GIGAスクール構想による、教育のICTの推進を図る。	生徒1人1台のタブレット端末を活用した授業に取り組んでいる。 一生徒は、それらを授業や家庭学習等でしっかり取り組んでいる。	4 全教諭が取り組んだ	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	3.5	3.5	3.3	3.4	活用についてはだいぶ浸透してきている。教科によって使用項目や使用方法を工夫しながら使用効果を図っていく。各教科間の情報交換や ICT支援員の協力を得ながら今後も進めていく。	極力全教科で使用する方向で進めている。ただし教科によっては教材的に難しいところもある。また総合的な学習の時間等の部へ学習やまとめに積極的に活用をし授業学習を実施している。
				3 大半の教諭が取り組んだ	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり取り組めていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど取り組めていない	1 生徒はほとんど取り組めていない								

【① 取組(努力)指標の目安】 →　4：取り組んだ(80%以上)　3：ある程度取り組んだ(60%以上80%未満)　2：あまり取り組めなかった(40%以上60%未満)　1：ほとんど取り組めなかった(40%未満)
【生徒アンケートの指標】　→　4：そう思う(よくできている)　3：だいたいそう思う(だいたいできている)　2：あまりそう思わない(あまりできていない)　1：まったくそう思わない(まったくできていない)

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準 取組(努力) 指標				成果指標				分析コメント	改善策
				取組(努力) 指標		成果指標		中間	年間	中間	年間		
子どもの健全育成と環境づくり	○授業規律と快適環境の整備に努める。 ○基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。 ○生徒が活躍できる場面や機会を多く設定する。 ○人権教育を柱に、道徳の時間の充実を図り、生徒の心を育てる。	生徒の実態把握や内面理解に努め、いじめや不登校への対応に対し全教員が組パアンテナを持ち、早期発見、早期解決に向けて素早く、組織的な対応をとる。	生徒の情報を把握し、いじめ起こさない生徒指導を行う。 一生徒は、思いやりのある行動・言動をとり、いじめのない学校にしようとしている	4 全教諭が実施した	4 生徒がしっかりしている	3.5	3.7	3.7	3.6	生活指導部会・特別支援委員会を週1回開き、情報交換や個別な生徒対応と共通認識を持つようにしている。いじめ問題への教師や生徒の敏感さも高くなっている。	昨年度、成果があったキーを使ったセーフティ教室を今年度も実施し、LINEの使い方と課題を学習した。また、道徳の授業を充実させることで、思まい言動を考えさせてきた。このような学習と実際の行動をいかに結びつけるかが課題である。
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒がしっかりしている								
				2 あまり実施できていない	2. あまりしっかりしていない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんどしっかりしていない								
		道徳の時間を充実させ、人権に対する意識を高める。 一生徒は、道徳の時間を、人権意識をもってしっかり取り組んでいる。	4 どの教諭も実践した	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	3.2	3.4	3.3	3.6	教科化を受けて、各学年の行事や問題点、生徒の実態を考慮しながら授業に実施しているため、取組・成果指標は高い。	豊かな人間性を備えた生徒の育成のために、教員と生徒・生徒相互の信頼関係を深めるようにしている。 日常の教員自らの道徳的実践とともに、道徳の授業以外の教育活動において、他者との良好な関係について、今後も考えさせるよう指導を行う。	
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり実施できていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんど取り組めていない								
		学校行事のさらなる充実を図るとともにボランティア等で地域の人々や異年齢の人々との関わりで、豊かな人間性のある生徒を育成する。	生徒一人一人に活躍できる場をつくり、生徒に成就感を与える工夫をする。各学級等で生徒に参加する意義や内容を説明し、参加を促進する。 一生徒は積極的に学校行事やボランティア活動に取り組んでいる。	4 全教諭が実施した	4 どの生徒もしっかりできている	3.5	3.5	2.7	2.5	コロナ禍であり制限などはあったが、学校行事・学年行事ともに、行事の趣旨・ねらいを達成する取り組みができ、生徒は達成感を得ることができていた。地域のボランティア活動などはほとんどの取り組みができないため成果は低いが、実施できた行事等では達成感を感じていた。	コロナ禍の中であったが運動会と学芸・学習発表会は実施できた。あらためて生徒が様々な経験をすることは生徒の成長に繋がると実感した。今後は再開されていくボランティア活動についても多くの生徒が参加するよう、ボランティアの意義について指導していく。	
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒ができている								
				2 あまり実施できていない	2. あまりできていない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんどできていない								
		社会的ルールやマナーを教え規範意識を育てる。	情報の共有・指導の共通化を図り、問題行動の未然防止、早期発見・早期対応に努める。 一生徒はルールやマナーを守って生活している。	4 全教諭が実施した	4 どの生徒もしっかりできている	3.5	3.5	3.5	3.6	指導に配慮を要する生徒（アレルギー対応情報も含む）の情報交換を年度初めに行い共通理解をし、生活指導部会と特別支援委員会を週時程に設定して必要な対応をとっているため、今学級とも落ち着いて生活している。アレルギー対応生徒の情報は、毎朝全教員で確認している。	生活指導の各種アンケート調査（いじめ調査など）を確認し、問題行動の把握と早期対応に努める。 毎日ノートに書かれている生徒の言葉や使い方を注意深く観察し、三者面談を有効な機会ととらえ、生徒の課題を把握して指導に役立てる。	
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒ができている								
				2 あまり実施できていない	2. あまりできていない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんどできていない								
		きちんとした挨拶や礼の大切さを指導する。	登校の挨拶や授業での礼がきちんとできるように指導し、自らも実践している。 一生徒はおいさつや礼儀がきちんとできる。	4 全教諭が実施した	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	3.7	3.8	3.6	3.5	教師の指導も成果指標も安定している。学校全体として挨拶をでき、礼儀も身についてきている。来校者への挨拶等も概ね良好である。教員側からの挨拶、声掛けも常に心掛けている。	朝の挨拶運動や授業始まりと終わりの挨拶など、日々指導の場面は多くあり、繰り返しにより定着していると良好な現状を今後も継続する。また、朝礼や集会でも結語なく整然と整列が出来る状況である。今後も油断なく継続させていく。	
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり実施できていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんど取り組んでいない								
		体育の授業や部活動等を通し、体力の向上を図る。	体育の授業や朝マラソン、運動部の活動を通して、生徒の体力を向上させる工夫をする。 一生徒は体力の向上を図るため、積極的に体育の授業や部活動等に取り組む。	4 どの教諭も実施した	4 参加しているどの生徒も満足感を得た	2.9	3.4	3.2	3.2	体育の授業には集中して臨んでいるが、コロナ禍で部活動の活動制限があった時期があり成果指標が若干ではあるが低くなっている。また、運動部活動の休養日を確実に設けている。	体育の授業には生徒は積極的に参加し、体力の向上や集団行動などを身につけている。 コロナ禍のため、部活動が制限された時期もあったが、秋に実施した朝マラソンには全員ではあったが多くの生徒が参加をした。感染対策をしっかりと取りながら実施できるものは今後も実施していく。	
				3 大半の教諭が実施した	3 参加している大半の生徒が満足感を得た								
				2 あまり実施できていない	2. 参加している生徒はあまり満足感を得られていない								
				1 ほとんど実施できていない	1 参加している生徒はほとんど満足感を得られていない								
		自ら考え判断して行動する力を育成するために生徒会活動の充実を図る。	自治活動を促し、意図的・計画的な取り組みを行う。 一生徒は積極的に活動に参加し、自らを向上させている。	4 どの教諭も実施した	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	3.4	3.5	3.7	3.4	コロナ禍で自治活動が出来ず計画的な取り組みを行うことは出来なかった時期もあった。限られた中ではあるが生徒たちは意識は高く、積極的に取り組めていた。	自治活動再開後は、感染対策を十分に取りながら各種委員会が工夫をしながら積極的にキャンペーン活動などを実施しながら活動をしている。1年生から3年生が共に活動できる貴重な場と捉え上級生から学ぶ良い機会としたい。	
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり実施できていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんど取り組めていない								
		SNSの適正な利用	現状を理解し、生徒たちにSNSのルールやマナーを指導するとともに、トラブルに巻き込まれた場合に相談ができるよう、日頃からコミュニケーションを取るようにする。 一生徒は生徒会より提示された、「保護SNSルール」を理解ししっかりと取り組めている。	4 どの教諭も実施した	4 どの生徒もしっかり取り組んでいる	3.4	3.4	3.6	3.5	ほとんどの生徒がスマホを持っていてSNSを使用している。セーフティ教室などでSNSのルールやマナーを学ぶと共に危険性についても指導をしている。多くの生徒はその知識は あり気をつけて使用はしている。	校内でのSNSルールは生徒会を中心に浸透はしているが、使用に関してはなかなか見えないので、我々大人が気がつかないところでトラブルになることはある。その際に相談に来れるよう日頃から声掛けを確実にしていく。	
				3 大半の教諭が実施した	3 大半の生徒が取り組んでいる								
				2 あまり実施できていない	2. あまり取り組んでいない生徒が多い								
				1 ほとんど実施できていない	1 生徒はほとんど取り組めていない								
		不登校生徒への対応。 不登校生徒を減らす対策	多様な問題を抱えた生徒に対し、細かな支援を目指し、保護者・関係機関との連携をしながら、社会的自立や学校復帰に向けて適切な働きかけをすることにより、発生率を減少を目指す。	4 どの教諭も実施した	4 発生率を大幅に減少させることができた	3.2	3.5			それぞれ多様な問題や悩みを抱えている生徒が少なくない現状である。また、小学校の違から欠席が多い生徒もいる。細目に保護者に連絡を取り連絡を密にし状況を把握しながら、少しでも前向きな気持ちになれるような支援を心掛けている。	関係機関やSCとも連携をしながら対応している。これという解決策があるわけではないので難しいところもあるが生徒の気持ちに寄り添いながら少しでも前に進めるよう関りをもっていく。	
				3 大半の教諭が実施した	3 発生率を減少させることができた								
				2 あまり実施できていない	2. 発生率はほぼ昨年同様であった								
				1 ほとんど実施できていない	1 発生率が昨年より増えてしまった								
		特別支援教育の充実を図り、個に応じた指導やユニバーサルデザインの授業を工夫している。	特別支援を必要とする生徒への支援やユニバーサルデザインの授業に進んで取り組んでいる。	4 どの教諭も実施した		3.2	3.3			2週に1回授業内に特別支援委員会を実施し、対象生徒に対する情報交換やSCの助言を得ながら、誰もがわかりやすい授業を意識しながら進めている。	特別支援委員会やSCとの助言をいかし、対象生徒の情報を共有しながら個に応じた対応をしている。また、学びやすい教室環境整備をし、指示・説明のわかりやすさを意識した誰もが見通しの持ちやすい授業実践を進めていく。	
				3 大半の教諭が実施した									
				2 あまり実施できていない									
				1 ほとんど実施できていない									
家庭・地域との協働の推進	開かれた学校づくりを進め、地域との連携を図り、学校改善に努める。	学校公開を通して、信頼される学校づくりに努める。	保護者や地域の声を積極的に聞き、教育活動に生かす努力をする。 一保護者の評議委員は、学校が保護者や地域の声を聞き、教育活動に生かしていると感じる。	4 全教諭が取り組んだ	4	3.1	3.4			少しずつ行事や授業の公開が出来るようになり、土曜授業や各種行事（運動会・学芸発表会など）に来校していただいた保護者にアンケート用紙に評価や意望を記入してもらい今後に反映させるようにしている。	アンケートをもとに今後も改善をする。その際には、指摘を受ける前に保護者目線で考えた改善を行っていくことが大切である。	
				3 大半の教諭が取り組んだ	3								
				2 あまり取り組めなかった	2								
				1 ほとんど取り組めなかった	1								
			学年だより、学級だよりの充実や、ホームページ、学校公開、授業参観において、学校の教育活動を多くの方に知ってもらう工夫をする。 一保護者や評議委員は、学校の教育活動を積極的に公開していると感じる。	4 どの教諭も実施した	4	3.3	3.4			ホームページは副校長や情報担当がなるべく多く更新することを心掛けている。また、各学年の学年だよりは定期的に（月に1回以上）発行し生徒の様子や行事の予定等を載せている。	学年だよりは各学年ともに充実し、学校での生徒の様子を家庭に知っていただくことができている。また ホームページもなるべく多く更新することで、少しでも学校の様子を各家庭に伝えてきた。今後も引き続き継続していく。	
				3 大半の教諭が取り組んだ	3								
				2 あまり取り組めなかった	2								
				1 ほとんど取り組めなかった	1								
		PTAや学校地域応援団、地域社会と連携し、教育環境を整えるためにも行動する。	地域行事等の情報提供と活動への参加活動を行うとともに、PTAや地域等の活動に参加する。 一保護者や地域は、学校が連携して行動していると感じる。	4 全教諭が取り組んだ	4	3.0	3.0			ＰＴＡ委員会の所属を全教員で分担することで、必要な会合には担当教員は参加するようにしているが、コロナ禍の たため活動が出来なかった。	コロナ禍のためなかなか学校を公開したり、地域の活動に参加するなどが出来ていなかったが、少しずつ日常が戻ってきた。生徒のボランティア活動への参加や教員も参加を募って出来る範囲での連携を図っていく。	
				3 大半の教諭が取り組んだ	3								
				2 あまり取り組めなかった	2								
				1 ほとんど取り組めなかった	1								

【① 取組(努力)指標の目安】 →　4：取り組んだ(80%以上)　3：ある程度取り組んだ(60%以上80%未満)　2：あまり取り組めなかった(40%以上60%未満)　1：ほとんど取り組めなかった(40%未満)
【生徒アンケートの指標】　→　4：そう思う(よくできている)　3：だいたいそう思う(だいたいできている)　2：あまりそう思わない(あまりできていない)　1：まったくそう思わない(まったくできていない)